

図書館においてある本の中から
おすすめのものを選びました。
バラエティに富んだ本を紹介します。

「女性目線で徹底的に考えた防
災BOOK」

クロワツサン特別編集



家族、ペット、そして自己を
守るために今一度考えてみませ
んか？

TEL0996-86-1111

町立
鷹巣図書館

町立
指江図書館

TEL0996-88-6500



「自分のままで暮らす」

著 吉沢 久子

歳を重ねた自分を受け入れて、
肩の力がうまく抜けた今だ
からこそできる楽しみ方を紹介
します。

Pick Up publication

長島文芸

Nagashima Bungo
ながしまぶんげい

長島短歌会

主なき庭に夏草生い茂り食器の欠片草陰に見ゆ

榎平 頼子

眼とじ眠られずぬて聞こへ来るいかでか夜半に啼
く不如帰

米尾 和子

亡き友の好みて植ゑし茉莉花の香り漂ふ主なき庭

坂之下典子

梅雨晴れてわが家の棟に今立ちし五色の旗は南風
に泳げり

中山タマエ

わが宿の客に供せん海草を嫁が炊く香の部屋に流
れ来

濱田美代子

動脈瘤破裂出血の息子のせ今大橋を渡りゆくべし

浜畑 松枝

わが畠の西瓜に糞を敷きたれば陽にほのぼのと香
り漂ふ

松元 睦子

石路の葉群に落ちし紅椿両手に包む昏れかかる庭

市尾 操

雷雨やみ暮れゆく港の係留船に巣作りせしや燕出
入りす

岩下 ち江

変遷の世を重ねたる老松の林の風音心に響く

岩下 房代

明神俳句会

出漁のうなるエンジン風青し

淵脇 護

通夜帰り引き寄せられて蜷川

大堂 早苗

五月雨や激震地覆ふ青シート

関 佳代美

樟茂り加藤清正地震に哭く

筑前 初市

蛇出でていまだ闇から抜けだせず

大堂 光幸

火の国や振れて嘆きの春の雨

山田 哲夫

梅雨時間包丁二三研ぎに出す

山寄加代子

蛇の後しずかに草が立ち直る

二階堂恵子

わびしさに見上げる空に花残月
桜まじ古墳祀りし島の空
地震以後の浅き眠りや若葉雨
杖ついてキュウリ育てる母ひとり

坂口 静子
白男川孝仁
迫口 君代
大堂 正弘

創生短歌会

諦めることが上手になったねと心の声を聴くこと
のあり
金物屋の店先にしてうつすらと埃かぶりている鎌
が見ゆ

竹之内重信

近づけば我が為のみに動き出すエスカレーターの
からくり知らず

宮元 司

野の花を小ビンに挿して食事する花も私もひとり
ぼちなる

野村 益信

歯科椅子に体をもたせ天井に無言の口があいてい
るなり

山下 学

若き日の昭和がじんと蘇る老いさらすなく白川由
美逝く

石原百合子

店先に土佐の刃物の展示あり懐かしきかな「肥後
の守」あり

村上 義彦

一般作品

山並の向うに沈む春の日の桜枝間の夕日眺むる

中仮屋辰子

黄の花を乗せて南瓜ツル伸ばす幼い実にもそつと
草敷く

小林 貢

掛け声は老いの証ぞ言うまいと思わず洩らす「ヨ
イショ」の声

小林 繁

飼いだの白く濁れる眼球は何を見ている灯りの下
で

母木 良平

生れ来てどうでも良いと思ふなら良い事成しと事
終わるなり

町田 末則

「俳句」

脇田 武志

ででむしよゆつくりでよい着実に

桐野 眞実

百合の花速夜の席に匂ひけり